倶多楽の火山活動解説資料（令和８年10月）

札　幌　管　区　気　象　台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図２-①～②）

監視カメラによる観測では、日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上100ｍ以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図２-③）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。
火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図３、図４）

GNSS 連続観測では、特段の地殻変動は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50ｍメッシュ（標高）』、『数値地図25000（行政界・海岸線）』、『基盤地図情報』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。



図１　倶多楽　南西側から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況（414m山監視カメラによる）
・日和山山頂爆裂火口、大湯沼、地獄谷では噴気が確認されています。

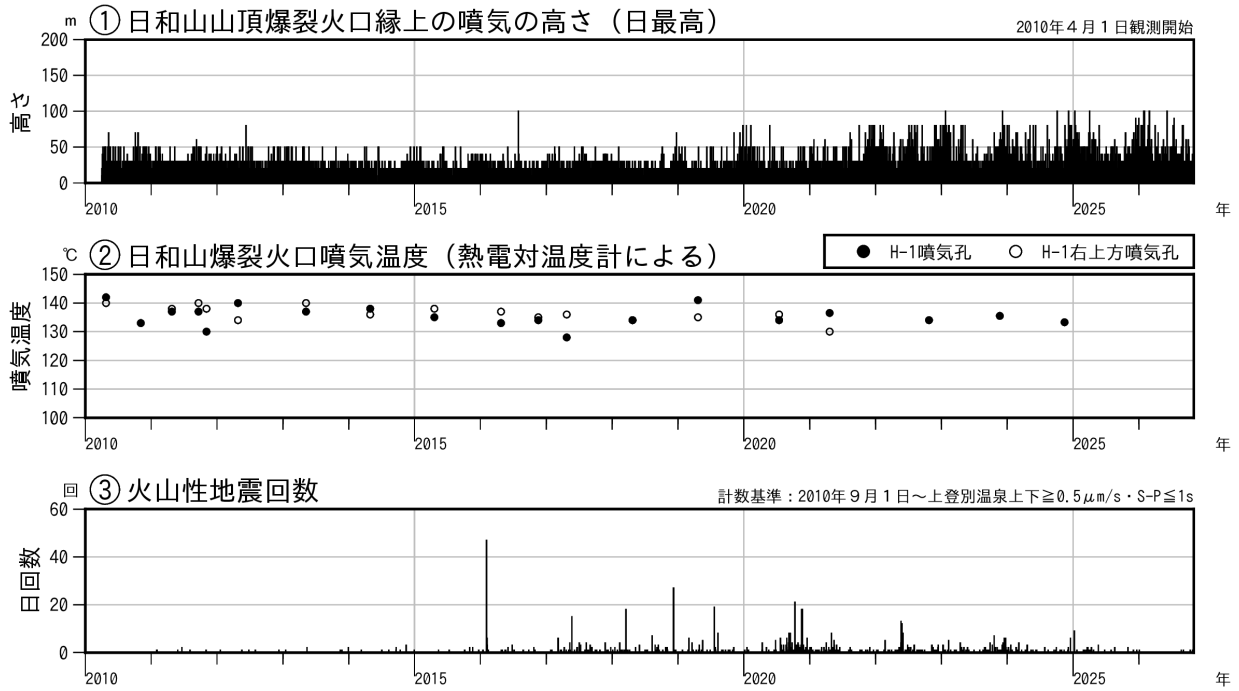


図２　倶多楽　火山活動経過図（2010年１月～2026年10月）

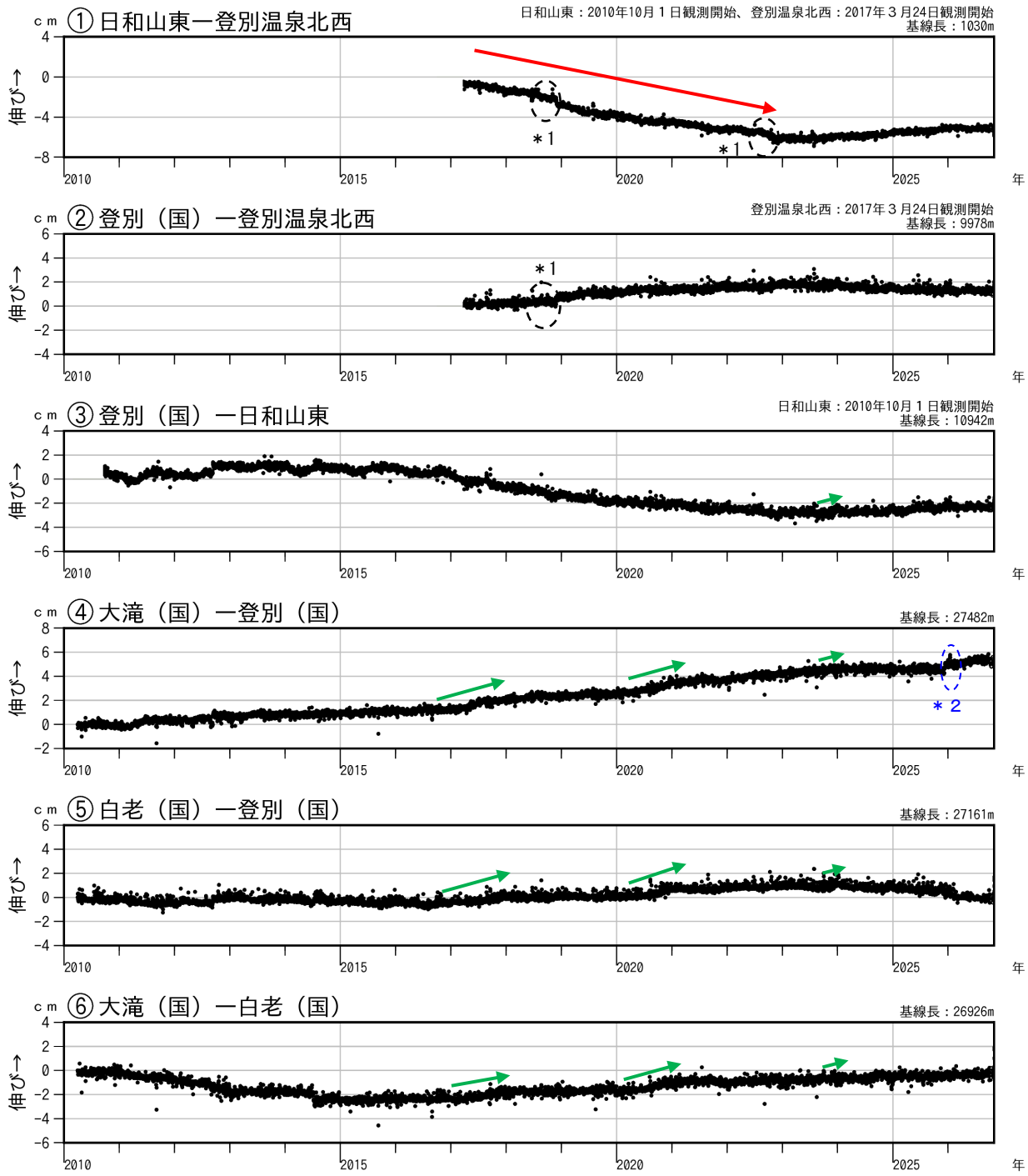


図３　倶多楽　GNSS連続観測による基線長変化（2010年４月～2026年10月）

グラフ①～⑥は観測点配置図（図４）の基線①～⑥に対応しています。

＊１：①及び②の黒破線内の変動は、登別温泉北西観測点の局所的な動きによるものと考えられます。

＊２：青破線内の変動は、2025年12月８日に発生した青森県東方沖の地震の影響によるものです。

・基線①では、2017 年頃以降、火口想定域（図５参照）付近浅部の収縮を示すと考えられる基線長の短縮（赤矢印）が認められていましたが、2022 年秋頃以降は概ね停滞しています。

・倶多楽周辺を挟む長基線④～⑥では、2017 年頃以降、倶多楽北西側深部の膨張及び停滞を示すと考えられる基線長の変化（伸長（緑矢印）と停滞）が繰り返し認められましたが、2024 年以降は停滞し、特段の変化は認められていません。

・基線②③では、上記の２つの変動が重畳していると考えられる推移が認められます。

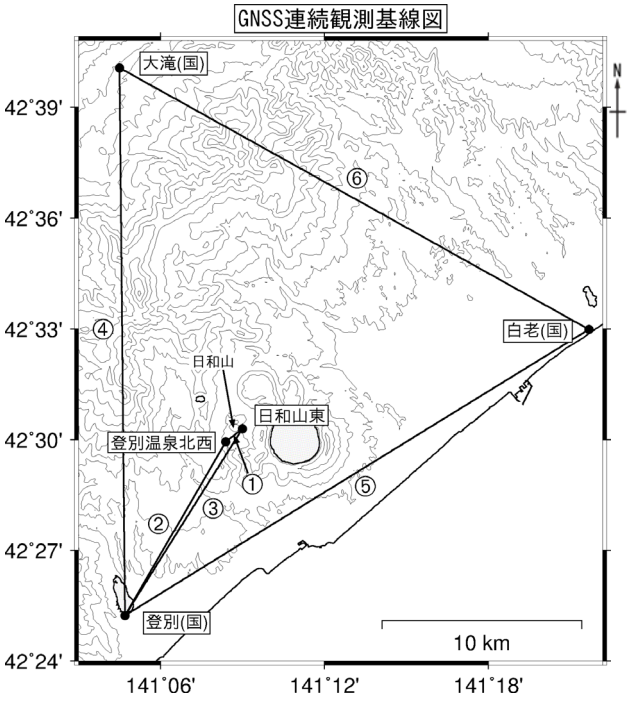


図４　倶多楽　GNSS連続観測の観測点配置図

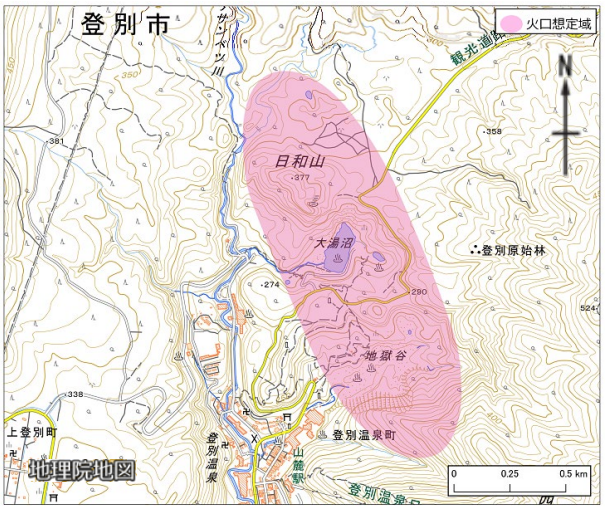
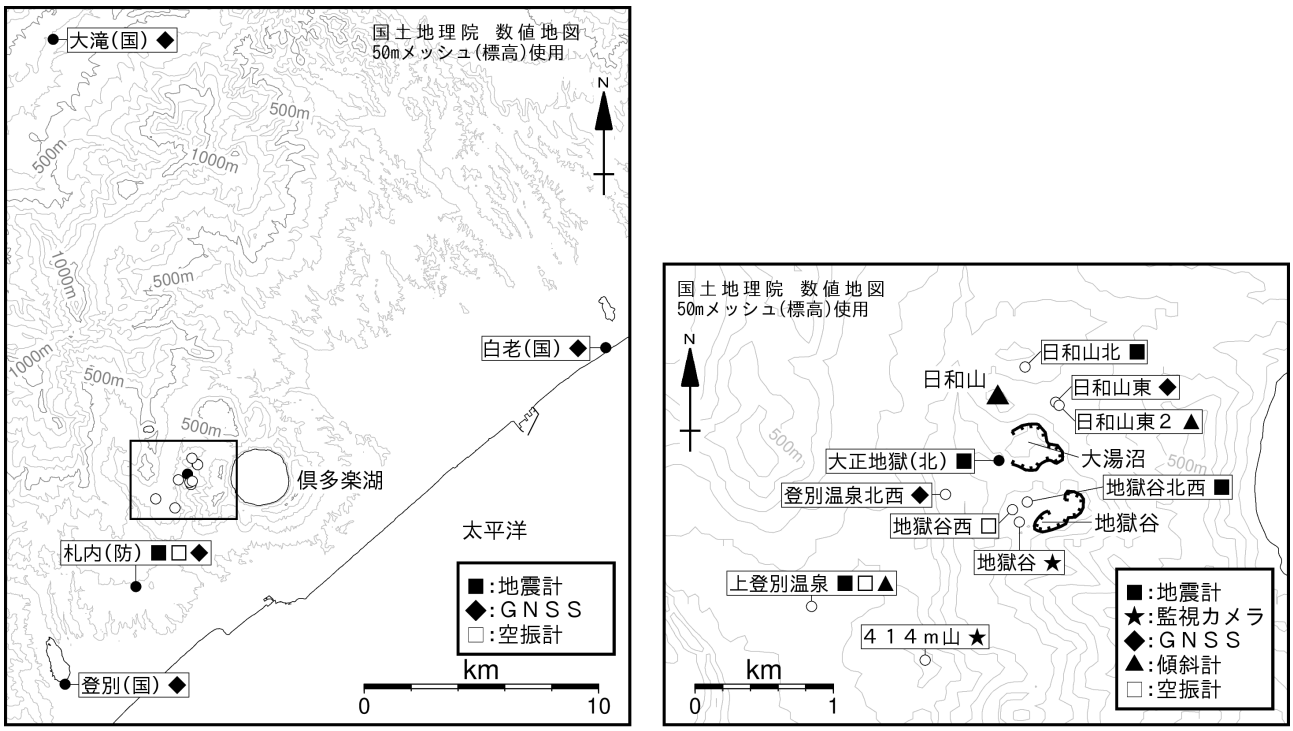


図５　倶多楽　火口想定域



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は他機関の観測点位置を示しています。左図中の四角囲みは右図の表示範囲を示します。
(国):国土地理院、(北):北海道大学、(防):国立研究開発法人防災科学技術研究所

図６　倶多楽　観測点配置図